



去る7月15日(水) 午後のひととき、入院生活の気晴らしにと、当院職員によるテナーサクソ、ピアノ、打楽器のトリオで、軽音楽をお楽しみ頂きました。外来ホールいっぱいになるほどの聴衆で好評でした。今秋も企画いたしますので、ご期待下さい。

心臓弁膜症センター オープンカンファレンスのお知らせ

- 日 時** 毎月第4木曜日18時~20時
- テーマ** 心臓弁膜症の手術症例を中心に
- 対 象** 医療従事者 **参加費** 無料
- 申込方法** FAXまたはメールで

(フォームは当院HPよりダウンロードして下さい)

FAX: 078-928-1718 (担当: 坂本) メール: ikyoku1@midori-hp.or.jp



ご当地今昔物語 第4回 古墳の話

皆さん、ご存じですか? 当院から北1キロの住宅地(神戸市西区王塚台)に吉田王塚古墳という、鍵穴形の周濠を備えた前方後円墳があります。宮内庁によって(欽明天皇の皇女の)舎人姫王の墓として管理されているため立ち入りできませんが、学者間では、人物(日本書紀によると西暦603年没)と古墳(出土した埴輪から推定すると5世紀初めに築造)との年代が合わないと言われています。

また、当院から北東3キロの丘陵(西区伊川谷町)上に白水瓢塚古墳という前方後円墳があり、人骨は残っていませんでしたが、副葬品から、被葬者は女性と推定されています。考古学者の春成秀爾さんによれば、これは伊川谷付近の有力者の娘が生前、奈良県桜井市にあるメスリ山古墳(4世紀初めに築造、全国で14番目に大きい)の被葬者の妃の1人となり、死後、遺体が出身地に還されて、そこに古墳を造り埋葬されたのではないかと言います。(メスリ山古墳に、墳丘の形態や出土した埴輪の作り方がよく似ているそうです。)

さらに、当院から南東8キロの海岸べり(垂水区五色山)には、県下最大(全国で39番目)の前方後円墳、五色塚古墳があります。その被葬者は、その立地から見て明石海峡の守衛に当たった軍事権を持つ人でしようが、ヤマト政権から派遣された人なのか、あるいは、明石地域を本貫とする在地の有力者なのか、意見が分かれます。

これら3基の古墳の造られた順番は、白水瓢塚(被葬者は女性、4世紀初め)→五色塚(被葬者は男性?、4世紀後半)→吉田王塚(被葬者は男性?女性?、5世紀初め)です。実は明石地域(西区、垂水区はかつて明石郡でした)には、前方後円墳は、この3基を含め僅か6基しかありません。これらは互いに何か関係がありそうです。想像をふくらませて、先程の春成さんは次のように言います。五色塚の被葬者は、例えばメスリ山古墳の被葬者と白水瓢塚の被葬者との間に生まれた息子の1人で、大和から派遣された軍事的指揮官でなかろうか。さらには、吉田王塚の被葬者は、五色塚の次世代の有力者であって、五色塚の被葬者の息子かもしれないと。(事務局 津田明彦)

参考文献: 『発掘された明石の歴史展「明石の古墳」』(明石市立文化博物館、2011年11月)



写真は吉田王塚古墳
(神戸市教育委員会提供)